

令和7年度 沖縄県県民等参加型地域公共交通検討事業の手法イメージ

事業概要

- 令和6年度は学生を中心に、移動困難者等を含めた「理想の姿」「具体的アクション」を収集し、県民の意見を取りまとめた一方で、企業勤務者及び観光客からの意見が収集できていない。
- このため、令和7年度は企業勤務者及び観光客等の意見を収集し、沖縄の交通環境に関わる住民等の幅広い意見の集約を図る。
- 提案された意見については、国が主導する「沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議(仮称)」へ報告するとともに、8年度の実証化へ繋げる。

	企業勤務者	観光客(移動困難者等)
圏域	中南部圏域	本島全県域
特徴	他の政令指定都市と同規模の人口、密度である一方で、公共交通基盤が極めて脆弱な中に都市が集積	観光施設が離散しており、公共交通利用を前提としたまちづくりや交通環境構築が不十分
課題	- 慢性的な交通渋滞により、労働生産性の低下などの問題 ➢ 過度なマイカー利用から適度な公共交通利用への行動変容を促すとともに、安定的・継続的に実現させるための公共交通の基盤構築が必要。	1日あたり平均観光客数は約10万人(2018年時観光客入込数にて試算) ➢ 観光客がレンタカーを活用することで発生している慢性的渋滞を可能な限り低減させるため、観光2次交通の利便性向上等に向けた取組が必要。
R7取組	➢ <u>企業勤務者に対し、複数次に渡るWSを開催</u> ・ 幹線道路に隣接していて、比較的規模が大きく、行動変容による効果が期待できる企業を検討 ・ 主なテーマは通勤に関する理想の姿、アクション。	➢ アンケートにより観光客(移動困難者)目線の意見を収集 ・ 主なテーマは観光周遊における理想の姿、アクション。

	内容	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国	沖縄交通リ・デザイン県民運動推進会議(仮称)											★
県	企業勤務者WS											↑
	アンケート											
	PI結果分析											

報告

展開

令和8年度実証例(現時点イメージ)

- ① 行動変容に向けた活動(機運醸成・研修活動等)
- ② ①は、その他社会実証事業と同時期に実施を想定